

参考資料 3－②
令和 2 年度第 1 回 沖縄総合事務局 開発建設部 事業評価監視委員会

再評価結果（原案）
-----------

○平良港国際クルーズ拠点整備事業

沖縄総合事務局開発建設部

## 参考資料 1

事業名 (箇所名)	国際クルーズ拠点整備事業 (平良港 漲水地区)			担当課 担当課長名	港湾局計画課 中村 晃之		事業 主体	沖縄総合事務局				
実施箇所	沖縄県宮古島市											
該当基準	その他:社会経済情勢の急激な変化等により再評価が必要となった事業											
主な事業の諸元	岸壁(-10m)、泊地(-10m)、航路・泊地(-10m)、臨港道路、旅客施設											
事業期間	事業採択	平成28年度	完了	令和3年度								
総事業費(億円)	162		残事業費(億円)			34						
目的・必要性	<p>&lt;解決すべき課題・背景&gt;</p> <p>・平良港は国際クルーズ拠点として、2020年代前半のクルーズ需要は250隻と推計される。</p> <p>・現在クルーズ船が着岸する下崎地区の岸壁、整備中の漲水地区の岸壁については、それぞれ砂・砂利・スクラップ、定期RORO船および定期コンテナ船に対応する施設であり、クルーズ船の利用できる日数が制限される。</p> <p>・また、下崎地区については、5万トン級のクルーズ船、漲水地区複合一貫輸送ターミナルでは11万GT級のクルーズ船までしか受け入れができないことから、さらなる大型クルーズ船の利用に対応出来ない状況にある。</p> <p>&lt;達成すべき目標&gt;</p> <p>国際クルーズ拠点の形成に伴う東アジアを周遊するクルーズ船の寄港増加に対応するため、平良港漲水地区において、港湾施設の整備を行う。</p>											
上位計画の位置づけ	<p>・社会資本整備重点計画(第4次) 重点目標4 民間投資を誘発し、経済成長を支える基盤を強化する。 4-2 地方圏の産業・観光投資を誘発する都市・地域づくりの推進</p> <p>・沖縄21世紀ビジョン基本計画(沖縄振興計画 平成24年度～平成33年度) 基本施策3 希望と活力にあふれる豊かな島を目指して (1)自立型経済の構築に向けた基盤の整備 施策展開イ 人流・物流を支える港湾の整備</p>											
事業の多面的な効果	■政策目標・施策目標											
	<p>・政策目標:国際競争力、観光交流、広域・地域間連携等の確保・強化</p> <p>・施策目標:海上物流基盤の強化等総合的な物流体系整備の推進、みなとの振興、安定的な国際海上輸送の確保を推進する</p>											
	<p>■定性的・定量的な効果</p> <p>&lt;定性的な効果&gt;</p> <p>①雇用の創出、地域活力の向上</p> <p>②観光地としての魅力の向上と国際交流の進展</p> <p>③クルーズ船受入時の作業負荷の解消</p> <p>&lt;定量的な効果&gt;</p> <p>①国際観光純収入の増加</p> <p>②残存価値の発現</p>											
	<p>■定量的効果のうち投資効率性</p> <p>○便益の主な根拠</p> <p>・国際観光純収入の増加 (大型旅客船の寄港回数の増加)</p>											
事業全体の投資効率性	基準年度		令和2年度									
	B:総便益(億円)	1,319	C:総費用(億円)		177	EIRR(%)	22.1	B-C	1,142	全体B/C	7.5	
残事業の投資効率性	B:総便益(億円)	785	C:総費用(億円)		37	EIRR(%)	61.4	B-C	749	継続B/C	21.5	
感度分析	(感度分析) 需 要 (-10% ～ +10%) 建 設 費 (+10% ～ -10%) 建設期間 (+10% ～ -10%)		事業全体のB/C 6.7～8.2 7.3～7.7 7.5～7.5			残事業のB/C 19.4～23.7 19.5～23.9 21.5～21.5						
社会経済情勢等の変化	土砂処分場の変更や浚渫土量の精査及びドルフィンの改良、不発弾対策のための潜水探査地点の増による、事業費の増加。											
主な事業の進捗状況	総事業費162億円、既投資額128億円 令和2年度末現在 事業進捗率79%											
主な事業の進捗の見込み	令和3年度の完了予定											
コスト縮減や代替案立案等の可能性	コスト縮減の可能性:今後の事業実施に際して適切に対応していきたい。 代替案等の可能性:特になし											
対応方針	継続											
対応方針理由	効率的な事業の実施を図ることによって十分な事業の投資効果があると判断されるため。											
その他	<第三者委員会の意見・反映内容>											

## 平良港国際クルーズ拠点整備事業 費用便益の概要

### 便益

項 目	区 分	単位当たりの便益			便益(代表年)	
		単位	備 考	単位	単位	
利用者便益	国際観光純収入の増加	7,100 万円/隻・年	旅客数増加による国際観光純収入の増加		69.6	億円/年
地域社会	残存価値の発現	3 億円	旅客施設の残存価値		2.7	億円/年

### 費用

費用項目	建設費、維持管理費
事業の対象施設	岸壁(-10m)、泊地(-10m)、航路・泊地(-10m)、臨港道路、旅客施設

参考資料 2

## 平良港国際クルーズ拠点整備事業

### 便益算出詳細資料

#### 1. 国際観光純収入の増加便益

本プロジェクトの実施により、22 万 GT 級クルーズ船の平良港への寄港が可能となり、上陸旅客数増大に伴う国際観光純収入が増加する便益を計上する。  
 本プロジェクトの実施により、69.6 億円/年の国際観光純収入の増加便益が発現する。

項目		With時	Without時
[1]クルーズ船寄港隻数(隻/年)	20万GTクラス	27	0
	14万GTクラス	69	0
	10万GTクラス	136	134
	7万GTクラス	12	12
	5万GTクラス	0	0
	合計	244	146
[2]1隻当たりの旅客数(人/隻)	20万GTクラス	4,500	4,500
	14万GTクラス	3,200	3,200
	10万GTクラス	2,790	2,790
	7万GTクラス	1,620	1,620
	5万GTクラス	1,350	1,350
[3]1人当たり観光消費額(円/人)		20,000	20,000
[4]国際観光純収入(億円/年) [1]×[2]×[3]	20万GTクラス	24.3	0.0
	14万GTクラス	44.2	0.0
	10万GTクラス	75.9	74.8
	7万GTクラス	3.9	3.9
	5万GTクラス	0.0	0.0
	合計	148.2	78.7
[5]国際観光純収入の増加額(億円/年)		69.6	

## 2. その他の便益

本プロジェクトで整備する「旅客施設」は、評価期間終了後は機能転換等により施設が供用することが想定されることから、残存価値として計上する。  
本プロジェクトの供用期間の終了と共に 2.7 億円の残存価値が発生する。

項目		With時	Without時
旅客施設（億円）	1棟	6.4	
	$(1-I/L) \times 0.9$	42.6%	
残存価値（億円）		2.7	

※L:耐用年数(=19)

I:再投資からの年数(=10)

平良港国際クルーズ拠点整備事業

費用便益分析シート(割引前)

年度	施設供用期間	割 引 前					(億円)	
		初期投資 資・ 更新投資	運営・維 持コスト	総費用 (C)	国際観光船 収入の増加 便益	総便益 (B)	総便益 (B-C)	純便益 (B-C)
2017		29.0		29.0				-29.0
2018		24.2		24.2				-24.2
2019		60.2		60.2				-60.2
2020		5.9	0.7	6.6				-6.6
2021	1	30.9	0.7	31.6	13.7	13.7	13.7	-17.9
2022	2		0.7	0.7	20.7	20.7	20.7	
2023	3		0.7	0.7	27.8	27.8	27.8	
2024	4		0.7	0.7	34.8	34.8	34.8	
2025	5		0.7	0.7	69.6	69.6	69.6	
2026	6		0.7	0.7	69.6	69.6	69.6	
2027	7		0.7	0.7	69.6	69.6	69.6	
2028	8		0.7	0.7	69.6	69.6	69.6	
2029	9		0.7	0.7	69.6	69.6	69.6	
2030	10		0.7	0.7	69.6	69.6	69.6	
2031	11		0.7	0.7	69.6	69.6	69.6	
2032	12		0.7	0.7	69.6	69.6	69.6	
2033	13		0.7	0.7	69.6	69.6	69.6	
2034	14		0.7	0.7	69.6	69.6	69.6	
2035	15		0.7	0.7	69.6	69.6	69.6	
2036	16		0.7	0.7	69.6	69.6	69.6	
2037	17		0.7	0.7	69.6	69.6	69.6	
2038	18		0.7	0.7	69.6	69.6	69.6	
2039	19		0.7	0.7	69.6	69.6	69.6	
2040	20		0.7	0.7	69.6	69.6	69.6	
2041	21	6.4	0.7	7.1	69.6	69.6	69.6	
2042	22		0.7	0.7	69.6	69.6	69.6	
2043	23		0.7	0.7	69.6	69.6	69.6	
2044	24		0.7	0.7	69.6	69.6	69.6	
2045	25		0.7	0.7	69.6	69.6	69.6	
2046	26		0.7	0.7	69.6	69.6	69.6	
2047	27		0.7	0.7	69.6	69.6	69.6	
2048	28		0.7	0.7	69.6	69.6	69.6	
2049	29		0.7	0.7	69.6	69.6	69.6	
2050	30		0.7	0.7	69.6	69.6	69.6	
2051	31		0.7	0.7	69.6	69.6	69.6	
2052	32		0.7	0.7	69.6	69.6	69.6	
2053	33		0.7	0.7	69.6	69.6	69.6	
2054	34		0.7	0.7	69.6	69.6	69.6	
2055	35		0.7	0.7	69.6	69.6	69.6	
2056	36		0.7	0.7	69.6	69.6	69.6	
2057	37		0.7	0.7	69.6	69.6	69.6	
2058	38		0.7	0.7	69.6	69.6	69.6	
2059	39		0.7	0.7	69.6	69.6	69.6	
2060	40	6.4	0.7	7.1	69.6	69.6	69.6	
2061	41		0.7	0.7	69.6	69.6	69.6	
2062	42		0.7	0.7	69.6	69.6	69.6	
2063	43		0.7	0.7	69.6	69.6	69.6	
2064	44		0.7	0.7	69.6	69.6	69.6	
2065	45		0.7	0.7	69.6	69.6	69.6	
2066	46		0.7	0.7	69.6	69.6	69.6	
2067	47		0.7	0.7	69.6	69.6	69.6	
2068	48		0.7	0.7	69.6	69.6	69.6	
2069	49		0.7	0.7	69.6	69.6	69.6	
2070	50		0.7	0.7	69.6	69.6	69.6	
合 計		162.9	35.0	197.9	3,228.0	2.7	3,230.7	3,032.9

費用便益分析シート(割引後)

EIRR= 22.1% NPV= 1,142.0億円  
B/C= 7.5

年度	施設供用期間	社会的割引率	初期投資 資・ 更新投資	運営・維 持コスト	総費用 (C)	国際観光船 収入の増加 便益	総便益 (B)	純便益 (B-C)
2017		1.12	32.5		32.5			-32.5
2018		1.08	26.1		26.1			-26.1
2019		1.04	62.6		62.6			-62.6
2020		1.00	5.9	0.7	6.6			-6.6
2021	1	0.96	29.7	0.7	30.3	13.1	13.1	-17.2
2022	2	0.92		0.6	0.6	19.1	19.1	
2023	3	0.89		0.6	0.6	24.7	24.7	
2024	4	0.85		0.6	0.6	29.6	29.6	
2025	5	0.82		0.6	0.6	57.1	57.1	
2026	6	0.79		0.6	0.6	55.0	55.0	
2027	7	0.76		0.5	0.5	52.9	52.9	
2028	8	0.73		0.5	0.5	50.8	50.8	
2029	9	0.70		0.5	0.5	48.7	48.7	
2030	10	0.68		0.5	0.5	47.3	47.3	
2031	11	0.65		0.5	0.5	45.2	45.2	
2032	12	0.62		0.4	0.4	43.1	43.1	
2033	13	0.60		0.4	0.4	41.8	41.8	
2034	14	0.58		0.4	0.4	40.4	40.4	
2035	15	0.56		0.4	0.4	39.0	39.0	
2036	16	0.53		0.4	0.4	36.9	36.9	
2037	17	0.51		0.4	0.4	35.5	35.5	
2038	18	0.49		0.3	0.3	34.1	34.1	
2039	19	0.47		0.3	0.3	32.7	32.7	
2040	20	0.46	2.9	0.3	3.3	32.0	28.8	
2041	21	0.44		0.3	0.3	30.6	30.6	
2042	22	0.42		0.3	0.3	29.2	29.2	
2043	23	0.41		0.3	0.3	28.5	28.5	
2044	24	0.39		0.3	0.3	27.1	27.1	
2045	25	0.38		0.3	0.3	26.4	26.4	
2046	26	0.36		0.3	0.3	25.1	24.8	
2047	27	0.35		0.3	0.3	24.4	24.4	
2048	28	0.33		0.2	0.2	23.0	23.0	
2049	29	0.32		0.2	0.2	22.3	22.3	
2050	30	0.31		0.2	0.2	21.6	21.6	
2051	31	0.30		0.2	0.2	20.9	20.9	
2052	32	0.29		0.2	0.2	20.2	20.2	
2053	33	0.27		0.2	0.2	18.8	18.8	
2054	34	0.26		0.2	0.2	18.1	17.9	
2055	35	0.25		0.2	0.2	17.4	17.2	
2056	36	0.24		0.2	0.2	16.7	16.5	
2057	37	0.23		0.2	0.2	16.0	15.8	
2058	38	0.23		0.2	0.2	16.0	15.8	
2059	39	0.22	1.4	0.2	1.6	15.3	13.8	
2060	40	0.21		0.2	0.2	14.6	14.5	
2061	41	0.20		0.1	0.1	13.9	13.8	
2062	42	0.19		0.1	0.1	13.2	13.1	
2063	43	0.19		0.1	0.1	13.2	13.1	
2064	44	0.18		0.1	0.1	12.5	12.4	
2065	45	0.17		0.1	0.1	11.8	11.7	
2066	46	0.16		0.1	0.1	11.1	11.0	
2067	47	0.16		0.1	0.1	11.1	11.0	
2068	48	0.15		0.1	0.1	10.4	10.4	
2069	49	0.15		0.1	0.1	10.4	10.4	
2070	50	0.15		0.1	0.1	10.4	10.4	
合 計			161.1	15.6	176.7	1,318.7	0.4	1,319.1

# 参考資料 5

## 港湾整備事業 事業費内訳

### (1) 事業費

項 目	数 量	全体事業費 (億円)	残事業費 (億円)
岸壁(-10m)		80.7	27.0
撤去工	7,771個	7.1	0.0
本体工(鋼管杭)(ドルフィン、ジャケット)	56本	20.6	9.0
本体工(ジャケット)	5基	31.7	15.0
上部工(ドルフィン)	1式	7.9	1.0
上部工(ジャケット)	1式	8.1	0.0
舗装工	4,800m2	3.1	1.0
付属工	240m	2.3	1.0
泊地(-10m)		8.1	0.0
浚渫工	58,000m3	8.1	0.0
航路・泊地(-10m)		18.3	0.0
浚渫工	236,000m3	18.3	0.0
臨港道路		47.7	0.0
基礎工	866m	7.2	0.0
被覆・根固工	866m	3.0	0.0
本体工	866m	10.7	0.0
裏込工	866m	7.6	0.0
上部工(臨港道路)	866m	1.6	0.0
舗装工	866m	2.6	0.0
付属工	866m	0.7	0.0
土工	15,000m3	1.5	0.0
下部工(橋梁)	7基	8.6	0.0
上部工(橋梁)	1式	4.2	0.0
旅客施設		7.0	7.0
旅客施設	1式	7.0	7.0
合 計		161.8	34.0

### (2) 管理運営費

項 目	数 量	全体事業費 (億円/年)
管理運営費	1式	0.77

※港湾管理者へのヒアリングにより算出